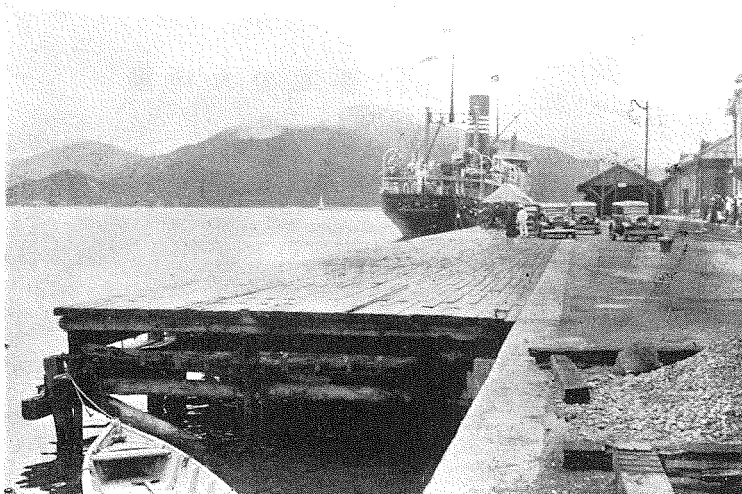


(1) 敦賀港修築工事平面圖。

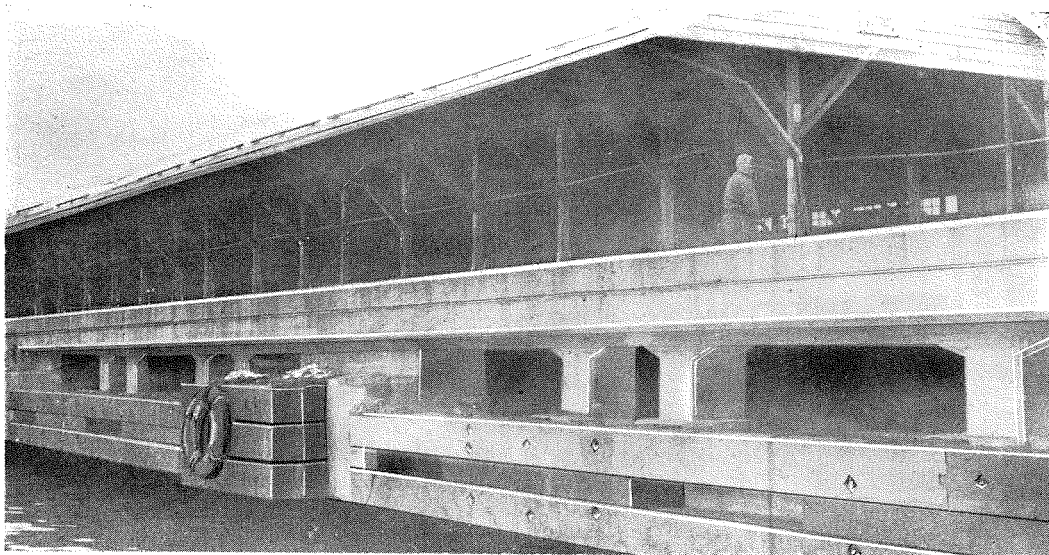
敦賀港棧橋改増築工事概要

敦賀保線事務所技手工學士 石田 武雄



大正3年敦賀港第一期修築工事施工後、0年の歳月を経過したる棧橋は、利用率の増大に依る負擔荷重の増加と、鐵脚腐蝕の爲、貨客の重量に對して不安を懷かしめ、従つて棧橋改築を餘儀なくされ

(2) 大正3年に施工した舊棧橋。



(3) 完成せる新棧橋。

たので、昭和9年6月15日改築工事を起し、224日の工期を以て本年1月30日竣功を告げた。以下主として寫眞により改築工事の概要を説明する。因に舊棧橋は鐵脚構造で、鐵脚の下端には巨大な鐵製スクリウの足をつけ海底に捻ぢ込んであつた。

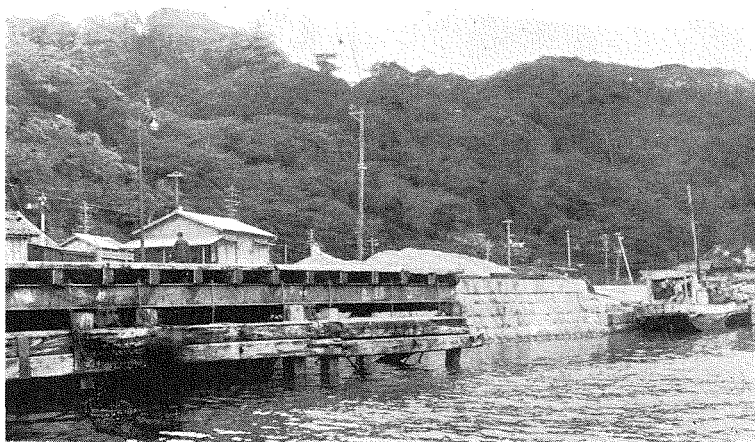
×

改築せられた棧橋は延長206米、幅員7米65で、長15米、徑45厘八角型の鐵筋コンクリート杭を打ち込んで脚柱とし、上部に二段のコンクリートスラブを施工したものである。後部は連續コンクリート擁壁とした。

×

以上に要したセメントは高級セメント12,823袋、普通セメント4,685袋、合計17,508袋で作業延人員22,162人、總工費150,860圓を要した。

(4) 改築前の棧橋と石垣の岸壁。



×

尙本工事の關係者は次の通りである。

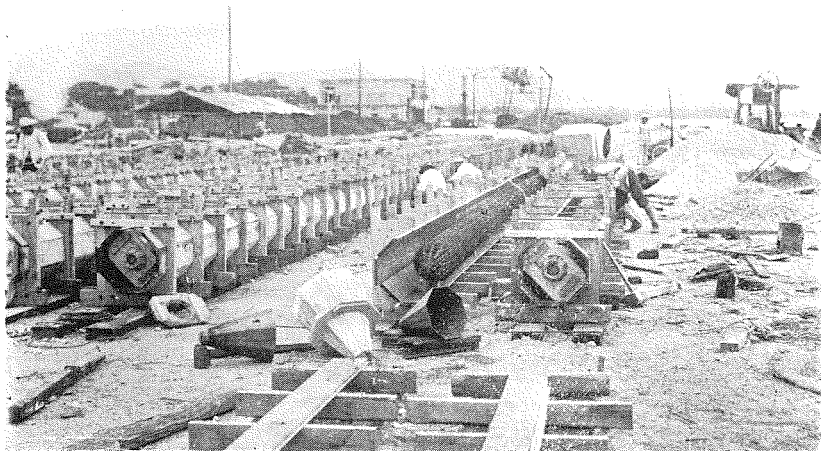
〔設計〕 名古屋鐵道局工務課長

技師	佐土原勳
同技師	河合毅一
〃	大川一郎
〃	古谷寅雄
技手	石田武雄

〔現場施工〕 敦賀保線事務所技師

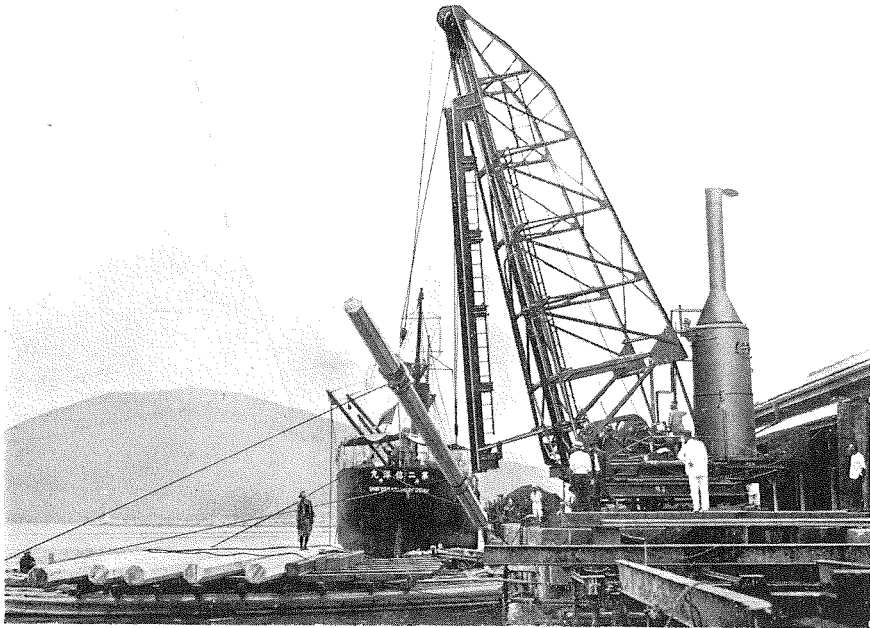
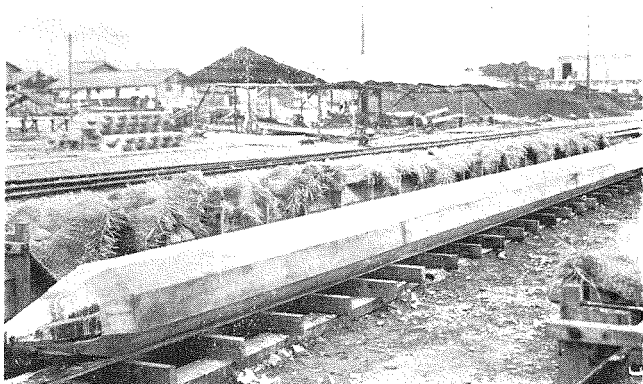
同	中村正照
	今川幸一

〔現場施工及監督〕	同技手	石田武雄
〔請負者〕		三木多助



(5)
脚柱用八角鉄筋コンクリート杭製作状況。
右は型枠組立
左はコンクリート打終。

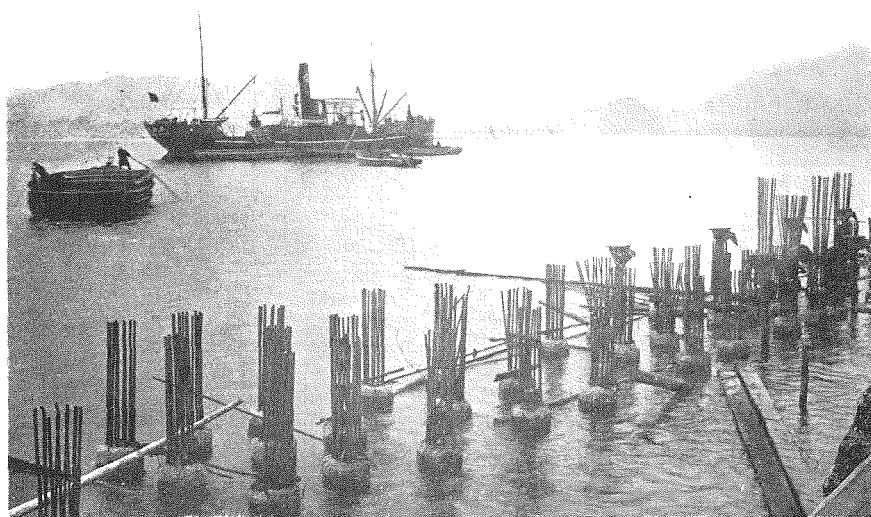
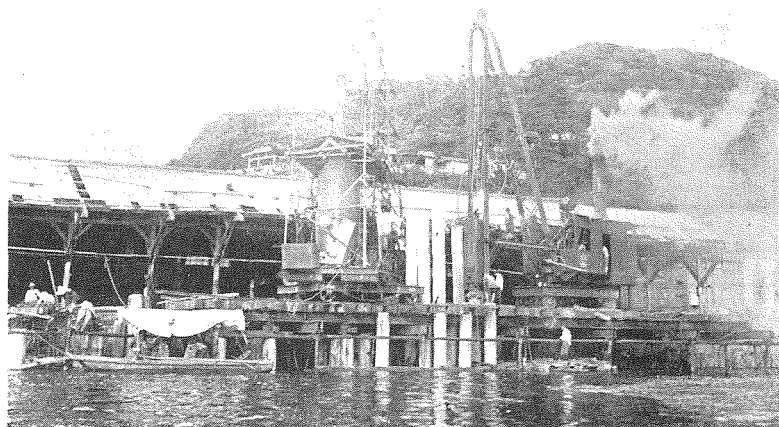
(6)
出来上つた鉄筋コンクリート杭と養生中の杭。



(7)
鉄筋コンクリート杭建設。杭は長15m、径480mmの八角型。

(8)

鉄筋コンクリート杭打状況。石川島製り噸クレーン(左)に取付けたる杭打機と油谷式1號杭打機(右)



(9)

鉄筋コンクリート杭頭部を取こわし、その上部にスラブを打ち継ぐ。

(10)

古居式補強材を使用して棧橋々面舗装中の状況。補強材使用の結果は良好であつた。

